

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム アミーチ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300100		
法人名	社会福祉法人共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	〒028-6721岩手県二戸市似鳥字上平15-1-2		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和7年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhvou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvou)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月2日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念でもある「ひとりひとりの思いを大切に」を心に刻み、利用者様、ご家族様、の声を聴き、思いを実現できるよう努力を重ね、職員間で共有している。  
四季折々の風景を楽しんでいただけるよう、散歩、外出、行事等通じ、利用者様に笑顔になってもらえるようアクティブ活動にも力を入れて支援している。  
1人ひとりの出来ることを把握し、日常的な家事などを職員と一緒にしない、心身共に健康に過ごしていただけるよう配慮している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、二戸市西部の緑に囲まれた丘陵に位置し、特別養護老人ホームが隣接している。「一人一人の思いを大切に」とする理念に沿って、ケアプランに利用者の好きなことや趣味を日常生活に取り入れた支援を行っている。開設20年以上を経過した地域に根付いた事業所として、地域の幼稚園、小学校との交流も盛んに行われている。また、隣接した特別養護老人ホームと夏祭りや敬老会などの行事も合同で行い、利用者の楽しみとなっている。天気の良い日には、施設周辺を散歩したり、事業所の畑の野菜の収穫や草取りを楽しんでいる。また、職員が意欲ややりがい等を持って従事できるよう働き方改革にも取り組み、有給休暇取得を積極的に推奨するなど、管理者が中心となり互いに働きやすい環境づくりに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示しており、毎月の会議時には資料にも載せている。職員間で共有した上で日々念頭に置きながら支援している。	「一人一人の思いを大切に」とする理念を常に意識出来るよう共有スペースに掲示し、また、理念の持つ意味を職員間で共有出来るよう、職員会議で理念の持つ意味などを話し合っている。利用者の好きなことや趣味を日常生活に取り入れるよう、ケアプランに盛り込んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学校から運動会や学習発表会の招待をいただき地域の子供たちと交流している。理美容は、定期的に地域の美容院に依頼し訪問してもらっている。施設でのイベントの際は、幼稚園児、児童、生徒たちの慰問があり一緒に楽しんでいる。今年は地域の方々に日頃の感謝を込めて打上花火を実施した。	地元の幼稚園、小学校との交流は利用者の笑顔を引き出している。小学校の学習発表会には地域住民も集まって開催されている。職員の発案で、地域への事前告知を行い本格的な打ち上げ花火を実施したところ、利用者はもとより地域住民からも大好評だった。今年は隣接施設と合同で夏祭りも実施し、屋台(焼き鳥、たこ焼き、串餅、田楽、飲み物等)も出して利用者、家族等も楽しんだ。施設裏側に栗の木があり、その地主から収穫した栗を頂きおいしく味わったほか、栗拾いもさせてもらうなど、地域とのより良い関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の行事に参加し交流することにより、理解を深めてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状報告や事故報告などを行ない、委員のメンバーから出された意見は職員間で共有しサービスの向上に努めている。	利用者家族や民生児童委員、二戸市担当課職員、特別養護老人ホーム施設長、法人の評議員、監事が委員となり、2ヵ月毎に運営推進会議を開催している。運営推進会議では、運営の状況や行事、各委員会についての報告を行い、委員から情報提供等もあり活発な意見交換を行っている。	運営推進会議の開催を会議形式だけに限らず、避難訓練に併せて見守り等に参加いただき客観的な視点での検証を行ったり、ランチミーティング形式やゲスト委員による研修会など、違った形での開催を検討し、会議での議論が様々な角度から展開されることを期待します。

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム アミーチ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政職員も参加し、情報や助言をもらう機会がある。また、地域ケア会議はなるべく参加するようにし出席できない時は資料をもらっている。二戸市から防災ラジオを借りていて、災害情報や行政情報などを得ている。	運営推進会議には、二戸市の担当課職員が委員となっており、相談しやすい関係となっている。要介護認定申請についても、担当課を訪れ顔なじみの関係となっており、円滑にやり取りが行われている。管理者は、地域ケア会議に出席し、様々な行政情報を得ている。災害に関する情報は、借用している防災ラジオ等で早い段階での情報収集が可能である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の定期的な研修の他、3か月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、具体的な事例を上げ注意を促している。夜間のみ防犯上施錠している。	隣接する特別養護老人ホームとの合同研修を年3、4回実施している。事業所での身体拘束適正化委員会は、管理者と介護職員2名を委員として、年4回開催している。スピーチロックについての研修では、言い換え等を職員に考えてもらう機会を設けている。日々の介護の中で気づい場合には、職員でも注意、確認している。転倒防止のためのセンサーマット等は利用せず、見守りに重点を置いた支援を行っている。防犯のため夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修の他、定期的に事業所内でも研修を行ない、具体的な事例を通して意識付けをおこなっている。利用者の身体に出来たアザなどは写真を撮り記録に残している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度の研修には、管理者のみ参加しており、今後の課題として職員も学ぶ機会を設けるよう検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には丁寧な説明を心掛け、理解、納得してもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には毎月広報と、担当職員からのお便りを送付し、生活の様子を伝えている。通院や面会等で家族と接する機会を活用し、要望を聞く機会としている。今年は家族の要望により、昼食外出やお墓参り、買い物外出などの支援を行なった。	家族からは、通院送迎時に要望や意見を伺うように努めている。一緒に外食したい、親戚に会わせたい、買い物をしたい等の要望があり実現できるよう支援している。また、利用者の会話や表情から意向や思いを把握し、できる限り対応している。事業所の畑に植えたい野菜の希望や白髪を染めたい、ラーメンを食べたい等の希望が聞かれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議時に、職員からの要望や提案を聞く機会を設け、業務改善や働き方改革に取り組んでいる。年2回、経営者との面談もあり要望を伝える場がある。	職員の意見や要望は、理事長と年1回、施設長や管理者と年2回の面談時に確認している。有給休暇の取得や、玄関マットの取り替え等、物品購入や運営に関する意見や提案が多く、できる事から具体化している。働く環境づくりの向上に向け、有給休暇取得率を向上するため、職員の協力を得ながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行ない、自己評価、2次考課、3次考課と適切に評価している。フィードバックも行ない職員と管理者との面談の機会もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は計画的に毎月行なっている。法人外の研修にも参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者個々のネットワークで他事業所と情報交換する機会があった。相互訪問の機会は無かったが今後は検討していきたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の意向などを丁寧に聞き取り、良好な関係作りに努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から意向などを丁寧に聞き取り、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が安心して新しい環境に馴染み、自分の居場所や過ごし方が見つけられるよう日々観察を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業を行う事で、1人ひとりの能力や出来る事を把握し、自信を持って過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や面会の機会など、折に触れ協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が緩和された事により、面会の機会も増え、馴染みの店での買い物もできている。散髪については3か月毎に地元の美容師とボランティアの方が来訪し、馴染みの関係を築いている。	特別養護老人ホームと合同で開催した夏祭りでは、焼き鳥や田楽、たこ焼き、飲み物等の屋台を利用者や利用者家族も一緒に楽しむことができた。4人の利用者は家族と一緒に墓参りに出かけている。家族に電話をかけたたり、年賀状や暑中見舞いを書く支援も行い、様々な馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等を把握し、お互いを尊重し合える良好な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの場合、隣接する特養への入所でサービスが終了となる。その際、必要な情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話を大切にし、利用者の思いを汲み取るようにしている。得意なことにはなるべく活かせるよう支援している。	現在は意思表示が可能な利用者が多いこともあり、会話や表情から思いや意向を確認しながら、希望に添えるよう支援している。意向を伝えられない利用者については、表情や仕草を注視して、思いをくみ取るよう努めている。また、これまでの生活歴や本人の話を聞き、意欲を引き出すことが出来るよう支援している。仕出し屋で働いたことがある利用者は、生き生きとして食事の準備を手伝っている。何かしながら利用者がふと話してくれる瞬間を逃さないようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、家族や本人から聞き取りを行い、情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報は申し送り等で職員間で共有している。会話や表情、行動からその時の気持ちや体調の変化に気を配って様子観察を行なっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネが居室担当者の意見を参考にしながら原案を作成し、サービス担当者会議で決定している。モニタリングは居室担当者が中心となって行なっている。	居室担当者が中心となってモニタリングを行い、サービス担当者会議で検討した内容をもとに計画作成担当者が原案を作成し、6か月に1回見直しを行っている。また、状態に変化があった際には、随時見直しを行っている。利用者の思いを中心に、家族からの要望等は普段のやり取りの中で聞き取った内容を盛り込み、必要に応じ主治医の意見等も反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を個別記録に記入し、申し送りノートも活用しながら情報を共有している。情報は介護計画の見直しに反映させている。			

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム アミーチ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いや送迎など、その時の状況や要望に合わせて柔軟に対応している。必要に応じ金銭管理も行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通い慣れたスーパーや馴染みの店での買い物、定期的に来訪してくれる地元の美容師やボランティアとの会話など、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続している方が大半で、通院は家族が付き添っている。通院時には通院カードを活用して報告や相談を行ない、適切な医療を受けられるよう支援している。また、必要に応じて皮膚の状態などを画像にプリントし情報提供している。	受診は家族の付き添いを基本とし、継続して入居前からの主治医に通っている。通院時には、事業所での様子を記録した通院カードを家族が持参している。利用者の状態によっては、職員も同行し利用者の状態を医師に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面で心配な事があれば、併設の特養の看護師に相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関へ情報提供し、退院時にはカンファレンスに出席し、退院後も安心して過ごせるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際に看取りは行なっていない事を伝えている。重度化した場合は隣接の特養へ住み替えとなるケースがほとんどである。	入居時にグループホームでは看取りを行っていないことを利用者や家族に説明し理解をいただいている。重度化してきた場合には、再度説明し特別養護老人ホームへの入所について説明している。事業所でも緊急時や重度化への対応を習得するため、嘱託医による研修や緊急対応時のマニュアルを実践に即して見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えて定期的にマニュアルを見直したり、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月様々は想定での避難訓練を実施している。年2回は隣接の特養との合同で避難訓練にも実施している。	火災や土砂災害、地震を想定した避難訓練を日中や夜間を想定して、毎月実施している。このほか、隣接している特別養護老人ホームと合同で年2回避難訓練を実施している。食料品をはじめ、発電機、反射式ストーブ、ガスコンロ等有事を備蓄している。	避難するうえでの課題や危険個所の把握を目的に、夜間想定での避難訓練を薄暗い時間帯に職員だけで実施されることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者の気持ちに寄り添い、丁寧な言葉遣いを心掛けている。声を掛ける時の状況、声の大きさ、その場の雰囲気作りにも気を配り、プライバシーにも配慮している。定期的に身体拘束について会議で話し合っている。	利用者一人一人の尊厳を守るため、言葉遣いや声掛けの仕方、傷つけるようなことを言わない、優しい対応を行うことを心がけている。排泄時の失敗等は利用者自身も自信を無くしてしまう場合が多いため、自尊心を傷つけないよう支援している。夏場の入浴時には、外から見えない網戸に変える等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が声を掛けやすい雰囲気、環境作りに努めている。会話や行動から、その方の思いを見逃さないよう気を配り、自己決定できるよう働きかけている。自己決定が難しい場合は選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先している。活動は選択できるよう声掛けを工夫している。特に希望が無い場合は気が向くような誘い方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服や季節に合った服装ができるよう支援している。適時家族に連絡し、自宅で着用していた衣類を持って来てもらっている。入所前からの行きつけの美容院へ家族と一緒に外出する方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに役割を持ってもらい食事の準備から片付けまで一緒に行なっている。昼食お楽しみ会や鍋料理、手作りおやつなどを行事に取り入れ、食を通して楽しんでもらっている。本人や家族から好みの食べ物を聞いてメニューに取り入れている。	事業所の敷地内に畑があり、利用者と職員で話し合い、希望する野菜を植え旬のものを取り入れて調理している。食材のカット、皮むき等の下拵えや盛り付け、配膳等を職員と一緒にやっている。玄関先で流しそうめんを食べたり、利用者全員で鍋料理を食べたりするなど、楽しんで食べることができるよう支援している。誕生日には、利用者の好きなメニューを提供している。敬老会は、特別養護老人ホームの厨房でお膳料理を作ってもらっている。おやつは、アメリカンドックやベビーカステラ、へっちょこ団子等、利用者も一緒に作れる手作りのものを提供している。食べることが好きな方が多く、楽しく食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況を把握し、刻んで提供するなどその人に合わせた食形態や量を提供している。水分不足にならないよう気を配り、飲み物のメニューを増やしたり、適時管理栄養士から助言を得ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個別で行なっている。上手く磨けない人や仕上げ磨きが必要な人には職員が付き添って手助けをしている。定期的な入れ歯洗浄や歯ブラシ、コップの消毒も行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、時間ごとの誘導や声掛けを行なっている。排尿量も観察しながら適切なパットを選んで使用している。失禁があった際は本人を気付けないよう配慮している。	排泄チェック表を活用して、一人一人の排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草に合わせた声掛けを行い、トイレでの排泄の支援に努めている。現在、布パンツを利用し自立している利用者が2人、リハビリパンツとパット利用者が6人、リハビリパンツとパットを利用し夜間はオムツをしている利用者が1名いる。便秘気味の方もいるため医師が処方する下剤を服用している利用者もいるが、基本的には、食事内容を工夫し便秘解消に努めている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム アミーチ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、乳製品は毎日一定量飲めるよう支援している。メニューに食物繊維の多い食材を取り入れ便秘にならないよう工夫している。散歩や体操、日常的な家事等で身体を動かす機会を持つようにしている。時にはかかりつけ医にも相談し助言をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は週3回、それ以外では週2回、決まった曜日で入浴を提供している。曜日は固定だが時間帯は利用者のタイミングに合わせて行っている。	入浴日は、季節により回数は変わるものの、寒い時期は、火曜日と土曜日の週2回午後の時間帯に入浴できるよう支援している。日曜日以外の入浴ができない日には足浴を実施している。入浴は2、3人の気の合う利用者同士で入れるよう工夫しており、会話も弾み楽しい時間となっている。歌を歌ったり、ラジオを聞きながら入浴している利用者もいる。入浴時間は限られているが、職員は慌ただしい雰囲気にならない支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整うよう散歩や体操、家事等で活動量を増やし、昼寝をする機会を設けている。休む際は室温、掛物、明るさに気を付けている。昼寝を好まない人には、和室や談話室等、好きな場所で過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認出来るようファイルにまとめており、いつでも把握できるようにしている。薬が変更になった際は説明書に目を通し、詳細な記録をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や毎日の家事、季節ごとの行事などを楽しんで参加できるよう支援している。誕生会や昼食会では、食べたい物を聞き取りしメニューに取り入れている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は敷地内を散歩したり、畑の草取りや野菜の収穫など日常的に外に出る機会を作っている。その他、ドライブに出掛けたり隣接の特養との合同行事にも参加している。家族と一緒に外食や買物をしてくる方もいる。	天気の良い日には、ウッドデッキに腰掛けたり事業所周辺を散歩している。畑の草取りや野菜を収穫する等の日常的に外に出かけることができるよう支援している。また、季節ごとに花見や紅葉狩り等のドライブにも出掛けている。冬場には外出機会も減りがちのため、産直や市街地に出かけている。病院受診時には、家族と買い物や外食で楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により少額のお金を所持している方もいるが、ほとんどの方は職員が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者から家族へ毎年賀状を出して、喜ばれている。利用者から電話を掛けることは無いが要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に装飾物を変えたり行事の写真を飾って、居心地よく過ごせるよう工夫している。居室やトイレの場所を分かりやすくするために貼り紙、浴室には暖簾をかけている。	共有スペースとなっている居間には、テーブルや椅子、ソファ、エアコン、加湿器が備え付けられている。天窓から光も差し込み明るい雰囲気、過ごしやすい空間となっている。壁には、利用者の作品や季節の装飾が飾られている。テレビを見たり、洗濯物をたたんだり、新聞を読む等の思い思いの時間を、利用者は過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や和室には作品や写真を飾り、楽しめる空間作りをしている。談話室には雑誌や新聞を置きいつでも読めるようにしている。和室にはコタツやテレビを置き、ゆったりとすごせるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	思い出の物や使い慣れた物を持参してもらうよう 家族へ働きかけている。居室には作品や家族写 真、贈物、好きな植物を置いている。	居室には、エアコンが2部屋、FFファンヒーターが 7部屋設置され快適に温度管理されている。ベッ ドや布団、クローゼットが配置されている。利用 者は、ぬいぐるみや写真、タンス、テーブル等 を持ち込み、家族からの手紙や自分で作った作 品、写真等を飾り居心地の良い空間となってい る。昼食後は各居室に戻り、昼寝をしたり、ジグ ソーパズルの作成等の趣味活動を楽しんでい る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	廊下にほうきとちり取りを置き、いつでも掃除出 来るようにしている。迷うことが無いよう居室と トイレに貼り紙、浴室に暖簾をかけている。		